

目 次

生まれ変わる附属図書館への期待	..... 1
図書館の非電子的、来館型、人的サービス	.. 4
鳥取大学研究成果リポジトリ	..... 6
ミニ・シリーズ・情報検索コーナーより	
その 21 「Web of science」利用ガイド	..... 8
正光文庫リスト	..... 10
2009 年利用できる電子ジャーナル・データベース	..... 12
中央図書館耐震改修工事スケジュール及び図書館サービス	..... 15
ミニ・トピックス	..... 17
開館カレンダー	..... 20

## 生まれ変わる附属図書館への期待

恒川 篤史

### 1. 図書館の電子化

もうすぐ全館リニューアルにともない附属図書館が生まれ変わる。どのような空間がつけられるのか、どのようなサービスが提供されるのか、それによって鳥取大学がどのように変わっていくのか、今からとても楽しみである。

いうまでもなく、1990 年代以降のインターネットの普及にともなう研究環境の電子化は、研究者、とくに理系研究者の図書館利用にドラスティックな変化をもたらした。私自身、1980 年代までは頻りに大学図書館に通い、過去の論文を集めたり、書籍を借りたりすることが日常的であった。それが今では電子ジャーナルや論文データベースを使うことが普通になり、その意味では図書館への依存度は以前よりも増しているが、図書館に行くという行為は激減した。正直に言えば、4 年前に鳥

取大学に来てから、附属図書館に行って本を借りたり、論文を読んだりしたことは一度もない。



Carlson (2001) は、その物議を醸した論文「人けのない図書館：学生がオンラインで作業をすることにより、閲覧室は空になり、スターバックスを導入したキャンパスもある」のなかで、学生はオンラインデータベースや電子ジャーナルを使うが、直接図書館に来ることはなく、学生を呼び戻すためにカフェを併設した図書館もあるという状況を描いている。まさに私の図書館利用の姿も同じようなものである。

図書館関係者にとってはこのような姿は電子図書館が従来の図書館を駆逐してしまい、従来の図書館は不要になるのではないかとい

う不安を惹起するかもしれない。しかし、このような図書館関係者にとっての悪夢は今日では杞憂となりつつある。少なくとも当面、大学図書館がなくなるわけではないことが認識され、図書館関係者の関心は図書館消滅の悪夢から、電子サービスの充実を含めていかに新たな図書館をつくっていくか、あるいはいかに「場所としての図書館」の魅力を増していくかに移っている（根本, 2005）。すなわち今日、これまでと違う新たな図書館のあり方が鋭く問われている。

本稿ではこのような時期に、理系研究者の一員としての私の個人的な経験をベースに、研究支援の側面を中心に、附属図書館の将来について私なりの期待を述べたい。

## 2. 理系研究者にとっての図書館

理系研究者にとって、論文作成のベースになるのは、(書籍ではなく) 学術誌の論文である。近年では電子ジャーナルの利用が一般的となっており、とくに国際誌の多くは電子ジャーナルとして提供されている。

まず **Web of Science** などの論文データベースを活用して読むべき論文をピックアップし、つぎに電子ジャーナル論文を **pdf** ファイルで入手し、それをパソコンに保管して利用するというのが一般的な姿であろう。

本学附属図書館の電子ジャーナルについていえば、タイトル数は増えてきたもののまだまだ十分ではない。とくに学会系のジャーナルが少ない。個人的にはたとえば **Geophysical Research Letters** や **Ecology** などの理学系の雑誌が少ないことに不便を感じている。データベースも、**Web of Science** については、1987年以前のものが使えないなど、大規模の大学図書館に比べて制約が大きい。費用とのかねあいで、規模の小さな大学図書館にとっては

これ以上の充実はむずかしいことかもしれないが、この状況はまさに情報基盤の格差であり、研究上の大きな障壁となっている。

つぎに書籍についてであるが、私自身は図書館を利用していない。必要な書籍の検索は、インターネット書店（おもにアマゾン）を使いそのまま注文してしまう。在庫がある場合には数日で手元に書籍が届く。数日といっても実際にはオフィスでパソコンに向かって検索・注文するので実質的な時間はほとんどかからない。私の場合、オフィスが附属図書館から離れていることもあって、図書館に行き直接、本を探す、附属図書館にない場合は他の図書館に注文するという時間的な余裕がない。

私のようなユーザにとっては、図書館が近くにある必要はない。書籍にしても、電子ジャーナルにしても図書館が近くにある必要はない。むしろ必要なことは書籍・雑誌数が十分多いこと、使い勝手の良いデータベースが整備されていること、注文してから手元に届くまでの時間が短いことの3点である。アマゾンと図書館との最大の違いは、有料か無料かだろうが、私は費用よりも時間を優先させていることになる。

アマゾンのようなシステムを大学に求めるとすれば、**Webcatalog Plus** の活用がカギとなるだろう。しかし **Webcatalog Plus** では検索はできてもそのまま注文ができない。検索してそのまま注文できるようなシステムが利用できればどれだけ便利だろうか。さらにいえば **Google** ブック検索や **Google Scholar** で一部、実現されているように書籍や論文をデジタルファイルとしてダウンロードできればさらにありがたい。

## 3. 生まれ変わる附属図書館への期待

冒頭で述べたように電子化の進展にともない新しい図書館のあり方が問われている。本学附属図書館がどのように生まれ変わるのか、いかにして図書館の存在価値を高めていくか、私の期待を述べたい。

第一に、大学の特色を生かした資料収集である。20世紀までの図書館は、共通の構造、共通の蔵書をもっていた。しかし近年では書籍・論文の電子化に加えて、データベースの整備や図書館の財政的な困難によって、他の図書館にはない独自のコレクションの重みが増している。たとえば拓殖大学図書館の旧外地関係資料のコレクションのような例は参考になるだろう。研究面でいえば、鳥取大学の研究活動の特色に沿って特徴的な資料収集をめざしてはどうだろうか。学術基盤は研究支援の一環であるから、図書館の資料収集・活用の基本方針、とくにどの分野の学術情報を重点化するのかについては、大学の研究推進の基本方針とも整合させるべきであろう。

第二に、いわゆる「場所としての図書館 (library as place)」(e.g. CLIR, 2005) の魅力を充実させることである。たとえば国際基督教大学では新しい情報環境の構築を目指し、「電子情報と印刷物の融合」をコンセプトとした新館を建築することにより、年間の入館者数は25万人から35万人に増加し、学生一人あたりの年間貸出冊数は1.5倍に跳ね上がったという(畠山, 2008)。「ネット時代であっても学生は誰かとコミュニケーションを図りながら学習できる場を求めており、それを実現できるのは図書館に他ならない」という指摘は興味深い。私も高校、大学と勉強の場としてずいぶん図書館を活用させてもらった。あの静寂と集中の雰囲気は、図書館ならではの

大きな資源であり、価値であり、魅力である。

第三に、図書館サービス評価の導入・活用である。慶応大学などでは米国 ARL (Association of Research Libraries) が開発した LibQUAL+™ という図書館サービス評価を活用しようとしている。その根底にあるのは、図書館はサービスを提供する機関であるという認識である。そして図書館の管理・経営サイクルの中に、サービス評価を取り込んで、目的・目標の設定→具体的活動→評価→目的・目標の再設定(見直し・改善)というサイクルを構築する。そのようなモデルを学内の他の組織に先駆けて導入してもらえないだろうか。

本稿では私の乏しい経験と知見をもとに研究支援の側面を中心に述べてきた。もちろん研究支援以外に、学習・教育支援、情報発信・社会貢献など図書館には多くの機能が求められていることを最後に付言して筆を置く。

Carlson S. 2001. The Deserted Library. *Chronicle of Higher Education*, 48 (Nov. 16, 2001), A35-A38.

[CLIR] Council on Library and Information Resources. 2005. *Library as Place: Rethinking Roles, Rethinking Space*. CLIR Publication, 129, 81 p.

畠山珠美. 2008. 国際基督教大学図書館: リベラルアーツの基盤として. 別冊環⑮ 図書館・アーカイブズとは何か, 274-275.

根本彰. 2005. 「場所としての図書館」をめぐる議論. *カレントアウェアネス*, 286, 21-25.

(つねかわ あつし : 乾燥地研究センター長)

# 図書館の非電子的、来館型、人的サービス

山根 博

図書館は、電子資料(eBOOK、電子ジャーナル等)の充実や非来館型サービスの充実を進めており、今後益々この傾向は顕著になり、図書館に行かなくても多くの図書館サービスを利用することが可能になると思われます。このたび中央図書館の耐震改修工事が行われるのを契機に、図書館の非電子的(手に取れる図書)、来館型(学習場所としての図書館)、人的(講習会等)サービスについて紹介してみたいと思います。

## ◆図書

### ・図書の購入と公共図書館との連携

中央図書館の利用統計によれば、ここ数年は入館者数、貸出冊数共に増加しています。その原動力となっているのは、1階にあるベストセラー、人間力図書、新着図書コーナー等の充実ではないかと思っています。これらのコーナーには年間で約6,000冊の新しい図書が並びます。しかし学生の皆さんの要望として、これだけでは読みたい本が少ないので、専門書だけでなく小説等の一般書を充実させて欲しいという声をよく聞きます。そういった声に応えるため、図書館では様々な工夫をしています。主な工夫として、購入希望図書制度、公共図書館との連携による協力用図書制度(鳥取市立図書館等から3ヶ月単位で100冊程度の図書を借用)、鳥取市立図書館ホームページの蔵書検索で予約し、鳥取大学中央図書館カウンターで市立図書館の本の貸出返却ができる制度等の充実を進めてきました。平成21年4月からは、鳥取市立図書館の移動図書館車が月2回 約2,500冊の図書を積んで湖山キャンパスにやって来ます。巡回時間は昼休みで、貸出カードもその場で作ることができますので、

是非沢山の方にご利用いただきたいと思います。

### ・正光文庫

平成20年9月に(株)正光よりご寄附を頂き、中央図書館と医学図書館に「(株)正光文庫」を設置することができました。中央図書館では、朝日・新潮等の選書や有用な事典等、普段はなかなか購入できない高価な図書や、まとまった資料約1,000冊を購入しました。現在の出版界では新書ブームということが言われています。実際図書館でも多くの新書を購入し、利用も多くなっています。この度購入した選書は、新書に比べて約1.5倍の情報量があり、新書より内容が充実しています。皆様のご利用をお待ちしています。

### ・本を手にする

皆さんは読む本を探す時、どのように探しているでしょうか。芥川賞、直木賞を受賞した本やベストセラー等の話題になっている本は読みたくなるのではないのでしょうか。インターネットの本の紹介、ブックランキング、Amazonのカスタマーレビュー、ブログの感想等を参考にしている人も多いと思います。以外におもしろくお勧めなのが、日曜日の朝にFMラジオで流れている作家の小川洋子さんが本の紹介をしている「メロディアスライブラリー」という番組です。1回で1冊の図書を紹介していますので、一度聞いてみてください。でも、この本が読みたいという本がない時は、図書館に足を運んでください。図書館の1階には先に紹介した図書が沢山並んでいます。背表紙を目で追うだけでなく、手にとって中味を数ページばらばらとめくって下さい。その時に、「おもしろそうだな」とか、「読んでみようかな」と思った本はすぐ借り

て読んでみてください。このように本の背表紙をながめ、実際に手にとって表紙や目次をながめてみると読んでみたくなる本が沢山あると思います。図書館で借りて読んでみて、この本は何度も読みたいので手元に置いておきたい、と思った時には購入することをお勧めします。海外では世界的不況のため、公共図書館の利用が急増しているそうです。本を買う時は、図書館で借りて一度読んでから、という図書館の利用方法もあるのではないのでしょうか。

#### ◆学習場所としての図書館

入館者数の統計によれば、1年の間で最も入館者数が多いのは7月です。平成19年7月の入館者数は51,648人で、最も少ない月の約4倍にもなります。これは、試験勉強のために図書館を利用する人が多いためだと思われそうですが、最近の学生の皆さんの勉強方法は3パターンあるように思えます。

①1人で集中して勉強するため、なるべく部屋の隅に行く人

②友達数人で静かに勉強しているが、何か分からないことがあると互いに教えあうグループ

③共同で発表等をするためか、数人でにぎやかに話をしながら勉強をしているグループ

従来の図書館は①のような使い方をする人のための構造になっていましたので、そのような使い方をしたい人にとっては、図書館は騒々しく使いにくい場所となっています。今回の改修では、できるだけこの3パターンの勉強方法の場所が区分けできるように工夫しています。新しい図書館では1階に集密書架を導入し、図書館の閲覧席を増やします。特に2階は個人で勉強したい人のためのスペースを多くする予定です。1階には現在の情報メディアルームの中にグループで利用できる部屋を作りますので、その中で議論した

りプレゼンテーションの練習等に活用してもらえると考えています。

#### ◆館内展示

中央図書館では、カウンター前で様々なテーマでミニ展示を行っています。最近行った展示テーマは、「Let's Cooking」、「ガンバレ就活」、「レポート作成」、「ノーベル賞」等です。その中では、昨今の不況、就職難を反映してか「ガンバレ就活」展示を見ている学生の方が比較的多いようでした。中央図書館では、これを参考に就職活動向けの図書を新たに購入しました。又、今後も月替わりでミニ展示を行いますので、是非図書館に足を運んでください。

#### ◆講習会

中央図書館では、昨年11月からオーダーメイド講習会を始めました。これは、教室、研究室等に図書館から出かけて行き、ご希望のテーマ(資料の探し方、情報検索データベース、電子ジャーナル等)で講習会を行うものです。先生方、学生の皆さんからの申込みをお待ちしています。

最後に、この館報が公開される時には広報されていることと思いますが、中央図書館は改修工事のため平成21年7月から翌22年3月まで閉鎖されます。中央図書館が閉鎖されている間は、仮設図書館(広報センター)で図書館業務を行います。試験期間中の最も利用の多い時期に閉鎖することになるため、利用者の皆様には大変ご不便をおかけして申し訳ありませんが、ご理解とご協力をお願いいたします。

以上、図書館サービスの宣伝を書き連ねてきました。これからも、電子的、非来館型サービスの充実だけでなく、多くの学生、教職員の方が図書館に来館していただけるよう、図書館職員による地道で、きめ細かいサービスの充実を進めていきたいと考えています。

(やまね ひろし : 学術情報部図書館情報課長)

## 「鳥取大学研究成果リポジトリ」について

現在試験公開中である鳥取大学の機関リポジトリ「鳥取大学研究成果リポジトリ」についてご紹介いたします。

### Q.「リポジトリ」ってなんですか？

A. 大学などの研究機関が学内の学術情報生産物（論文の本文など）をインターネット上で公開（無料）するものです。リポジトリ[Repository]とはもともと「倉庫」「貯蔵庫」等の意味ですが、ここ数年で機関リポジトリ[institutional repository]を設置する大学等が、世界中で増えつつあります。収録内容も紀要や学位論文、学術雑誌掲載論文や学会発表の抄録、発表原稿など多岐にわたっています。また、昨年は日本人ノーベル賞受賞者の研究論文が、各所属機関のリポジトリで公開され話題を集めました。鳥取大学でも2008年末に試験公開を開始し、現在収録コンテンツの収集および登録を進めています。



URL:<http://repository.lib.tottori-u.ac.jp/Repository/Index.e>

### Q.何かいいことがありますか？

A. 自分の論文を他の人に読んでもらえる可能性が高まります。書誌事項等を世界共通の形式でデータ化して付与しますので、国内文献のデータベース

CiNii(サイニイ)で検索できるようになる(予定)、あるいは Google 等のサーチエンジンで検索されやすくなることが予想されます。

### Q.著作権はどうなりますか？

A.サーバ上に電子ファイルをコピーし、インターネットを介して公開する許可をいただくこととなります(著作権の譲渡ではありません)。

出版社等に著作権が譲渡されているものは相手次第ですが、海外大手出版社の多くは条件付(出版後一定期間は不可/著者最終稿のみ可など)でリポジトリへの収載を認めています。著作権が著者にあるものは、著者の方(共著者含む)の許諾が得られれば公開できます。

### Q.強制ですか？

A.強制ではありません。

公開したい論文だけ公開することができます。逆に出版社等の許諾が得られないものは、リポジトリでの公開を希望されてもできません。また、申請予定の特許に関連する事項が含まれていたり、過去の論文等でプライバシーへの配慮がなされていないものなどは、公開を遅らせたり公開しないほうがよい場合があります。

### Q.手続きとか面倒くさくないですか？

A.リポジトリ搭載の承諾書にご記入いただき、原稿の電子ファイルとともに学術情報担当までお送りください。

電子ファイルは e-mail でも CD-ROM 等でもかまいませんし、ファイルがない場合もこちらでの電子化等に対応できる場合があります。その後の出版社の許諾確認、データ作成、登録はこちらで行います。

承諾書や詳細資料、Q&A は、メニューのリンク集からダウンロードや閲覧が可能ですのでご参照ください。

<http://repository.lib.tottori-u.ac.jp/Repository/Links.e>

図書館情報課 学術情報担当

TEL:0857-31-5673 (内 7060) FAX:0857-28-6346

mail:ac-gakuju@adm.tottori-u.ac.jp

## 「Web of Science」 利用ガイド

Web of Science は、トムソン社が提供する引用文献情報の学術文献データベースです。著者、キーワードなどの一般的な検索の他に、最大の特長である引用情報をキーとして文献間のリンクをたどり、関連する論文を効率的に探すことができます。

全世界で刊行されている広範囲な分野の学術雑誌から、現在、約 9,300 誌を厳選し集録しています。その情報を最新から過去に遡って検索することができ、鳥取大学での検索可能年は、自然科学系が 1988 年～現在、人文・社会科学系が 1993 年～現在です。

### ● Web of Scienceを使うと、こんなことがわかる！

研究の流れがわかる！

- ① Cited References : この論文の参考文献  
参考文献を次々たどっていくと研究の流れがわかる

影響力の大きい論文がわかる！

- ② Times Cited : この論文が他の論文に引用された回数  
この回数が多いほど多くの研究者に影響を与えているということがわかる

同じ研究をしている研究者の動向がわかる！

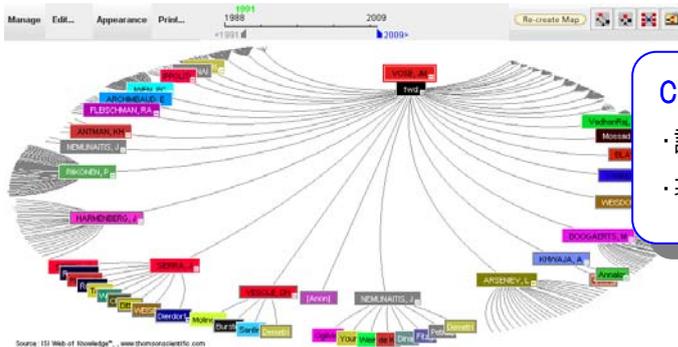
- ③ Related Records : この論文と他の論文の参考文献リストを比較  
参考文献の重複が多い程、関連度の高い論文であることがわかる

Cited References

①

② Times Cited

③ Related Records



### Citation Map(引用マップ)

- ・論文の引用関係を視覚化
- ・著者順、出版年順と並び替えが瞬時に

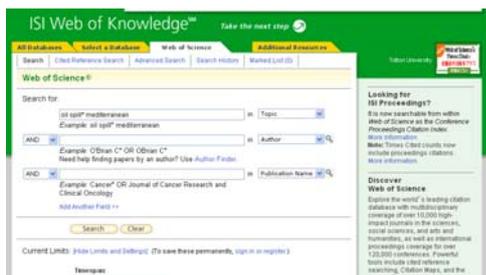
Impact Factor ヘルク



文献管理ソフト EndNote Web ヘルク



と、おっしゃる方のためにサポート・ガイドが充実!



ここをクリック!



研究室や自宅から受講できます。  
録音版はわかるまで繰り返し何度でも聴くことができます。



10 分程度の音声とスライドで概要説明を聞くことができます。  
文献管理ソフト EndNote Web への保存など。



ヒント1: 著者名で検索するには?  
ヒント2: Impact Factor を探すには?  
などなど、5 分でわかるヒントが紹介されています。

ご不明な点は、お気軽に学術情報担当までお問い合わせください。

TEL: 31-5673(内線7060) E-mail: ac-gakuju@adm.tottori-u.ac.jp

## 正光文庫リスト

株式会社正光様からの奨学寄付金により購入した資料です。

### 中央図書館

No.	資料名	出版者	備考
1	Oxford Dictionary of National Biography (DNB) 60vols. + index	Oxford Univ.Press	英国学士院/オクスフォード大学 出版局後援 オクスフォード大学 研究プロジェクト
2	参考図書 115冊		全分野(貸出用)
3	シェイクスピア全集 I, II (DVD 全 37 巻) オリジナル英語版 字幕: 日本語/英語	BBC	英国 BBC 製作 シェイクスピア単独で執筆された とされる戯曲全37作品を網羅 西欧文学の原点
4	伝統の技と心 DVD 全 10 巻	IMAGICA	過去から現在そして未来へと受け 継いでいくべき日本の伝統の 技、伝統芸能の粋、民俗芸能・ 行事の心の素晴らしさを鑑賞す る。
5	美の巨人たち 東山魁夷他 DVD 全 10 巻	日本経済新聞社	画家たちの「この一枚」の作品解 説を中心にその人物像と時代背 景を探り、知られざるエピソード などから画家たちの創造の苦し みと喜びに迫る。
6	新潮選書 185 冊	新潮社	選書カテゴリには「人間を見つめ る」、「人生を考える」等が挙げら れ、人間力の向上につながる構 成となっている。
7	朝日選書 314 冊	朝日新聞社	専門家だけが持つ豊富なデー タ・提言・思いをわかりやすく読 者に伝え、歴史、科学、教育、社 会問題等に関する読者の知的要 求に応える。

8	角川選書 111冊	角川書店	文学、歴史、文化、宗教、思想、趣味、教養……。知的刺激に満ちたラインアップで、人生・こころを豊かにしたいと願う読書人の期待に応える。
9	講談社選書メチエ 193冊	講談社	レベルの高い書き下ろし教養書。
10	Encyclopedia of Water Science 2nd Edition 2vols.	CRC Pr	水の取り扱い、処理、保護、および灌漑方法等の信頼できる情報源。工学分野だけでなく、農業技術分野もカバーする内容。

#### 医学図書館

番号	書名	出版社	冊	備考
1	DVD シリーズ ザ・サイナスオグメンテーション I-III	クインテッセンス 出版社	3	DVD
2	病気の基礎知識 病気の成因・病態と治療(第1～第5集)	医学映像教育センター	5	DVD
3	目で見える公衆衛生 全6巻セット	医学映像教育センター	6	DVD
4	生命・医療倫理学入門 DVDビデオ全16巻(セットのみ)～東京大学大学院医学系研究科生命・医療倫理人材養成ユニット～	丸善	16	DVD
5	栄養バランスのよい食卓づくり① ～「ごはん」と「おかず」のバランス～ ほか 全54巻		54	DVD
6	おまかせくださいあなたの老後「社会資源を知る(全8巻)」	筒井書房	8	ビデオ
7	精神保健福祉ビデオシリーズ(全5巻)日本語版	丸善	5	ビデオ

8	精神保健福祉ビデオシリーズⅡ 共生の時代へ(全4巻)	丸善	4	ビデオ
9	VHS 生命倫理を考える-終わりのない8編の物語 日本語版(全8巻) バイリンガル版	丸善	8	ビデオ
10	生涯発達心理学入門 全10巻	丸善	10	ビデオ
11	医学生・研修医のためのコミュニケーションスキルの実践的ガイド(日本語ナレーション版)全5巻	医学映像教育センター	5	DVD
12	目で見える解剖と生理(基礎医学シリーズ)第1巻	医学映像教育センター	1	DVD
13	コメディカルのための疾患の知識(全20巻) — 循環器編(全10巻)・呼吸器編(全10巻) ビデオ/VHS/DVD/15~36分/01~07年	医学映像教育センター	20	DVD
14	わたしたちのからだと健康 第2版 全13巻	医学映像教育センター	13	DVD
15	目で見える老年看護学2版 全7巻	医学映像教育センター	7	DVD
16	最新皮膚科学大系	中山書店	22	
17	麻酔科学スタンダード(I~IV)	克誠堂出版	4	
18	麻酔科診療プラクティス(1~5, 10, 12~20)	文光堂	15	
19	新臨床耳鼻咽喉科学 全5巻	中外医学社	5	
20	耳鼻咽喉科頭頸部外科一処置、手術シリーズ 1~3, 5, 7	メディカルビュー社	5	
21	耳鼻咽喉科診療プラクティス 全13巻	文光堂	13	
22	Scott/Brown's Otorhinolaryngology, Head and Neck Surgery 全3巻	Hodder Arnold	3	
23	化学のはたらきシリーズ 1~2	東京書籍	2	

24	産総研ブックス1-5	白日社	5	
25	地域看護活動とヘルスプロモーション<全4巻>	丸善株式会社	4	
26	実践 精神科看護テキスト(全18巻)	精神看護出版	18	
27	『死生学〔1〕、(3)～〔5〕』	東京大学出版会	4	
28	『ケア その思想と実践』全6巻	岩波書店	6	
29	『生命倫理百科事典』	丸善	5	
30	身体をめぐるレッスン 全4巻	岩波書店	4	
31	神谷美恵子コレクション 全5巻	みすず書房	5	
32	『テクノ・ソサエティの現在 I-III』	文化書房博文社	3	
33	インフォームドコンセントのための図説シリーズ	医薬ジャーナル	30	
34	完全病理学 全12巻	学際企画	12	
35	一目でわかるシリーズ 全30冊	メディカル・サイエンス・インターナショナル	30	
36	ブルーボックス (医学系図書 105冊)	講談社	105	



鳥取大学シンボルマーク

## 2009 年利用できる電子ジャーナル

2009 年に利用できる電子ジャーナルは次のとおりです。

Nature はバックファイルの整備により、昨年より利用可能範囲が広がっています。

電子ジャーナル パッケージ名	内 容	分 野	利用可能 範囲
Science Direct	Elsevier 社とその関連出版社発行の 2,500 誌以上	全分野	創刊号～
Cell Press (Science Direct 内)	Cell Press 社発行の 8 誌	ライフサイエ ンス	創刊号～
Springer-LINK	Springer 社・Kulwer 社発行の 1,600 誌以上	全分野	創刊号～
Wiley Interscience	John Wiley & Sons 社・Blackwell 社の合併により 1,400 誌以上	全分野	1996～
ACS	米国化学会 (American Chemical Society、ACS) が発行するコアジャーナル 34 誌	化学	創刊号～
Oxford Journal	Oxford University Press が刊行する約 170 誌	全分野	創刊号～
Nature 本誌	Nature Publishing Group が刊行する世界的に有名なイギリスの自然科学系雑誌	自然科学	1987～
Nature 姉妹誌	Nature Medicine など Nature の姉妹誌 12 誌		1997～
Science	アメリカ科学振興協会 (American Association for the Advancement of Science、AAAS) が刊行する世界的に有名なアメリカの自然科学系雑誌	自然科学	創刊号～
IEEE CSDL	IEEE Computer society が刊行する 22 誌	電気	1988～
ASCE	米国土木学会 (American Society of Civil Engineer、ASCE) が発行	土木	1990～
ASME	米 国 機 械 学 会 (American Society of Mechanical Engineers、ASME) 発行	機械	2000～
APS	米国物理学会 (American Physical Society、APS) 発行	物理	電子済のもの
Academic Search Elite	EBSCO host が提供するテキストデータベース。学術雑誌約 2,000 タイトルの全文情報	全分野	1985～

上記以外にも、個別タイトルやフリーアクセスを含め、約 15,000 タイトルが利用可能です。

図書館ホームページ (<http://www.lib.tottori-u.ac.jp/>) **電子ジャーナル** の **A-to-Z** (電子ジャーナルリスト) よりご利用ください。

# 中央図書館耐震改修工事スケジュール及び

## 図書館サービスについて

鳥取大学中央図書館は耐震工事に伴い、全館リニューアルすることになりました。  
 工事期間中は、中央図書館を全面閉鎖し、仮設図書館（広報センター）でサービスを行います。

皆さまにはご不便をおかけしますが、どうかご理解とご協力をお願い致します。

### ○引越・工事開始時期

騒音の出る工事を夏季休業期間中（8月6日から9月30日）に実施するため、中央図書館の引越・工事開始は平成21年7月からとします。

なお、中央図書館は7月から翌22年3月まで閉鎖し、4月から新装図書館でのサービスを開始する予定です。

### ○仮設図書館

中央図書館閉鎖に伴う利用者への影響を最小限にするため、中央図書館閉鎖後はできるだけ早期に仮設図書館を開館します。そのため、引越先となる広報センターは6月から閉館し、広報センター物品等の移動、仮設図書館の開館準備作業等を行う予定です。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	平成22年1月	2月	3月	4月
				前期試験 7/30-8/5 夏季休業 8/6-9/30						後期試験 2/5-2/12			
中央図書館				引越	工事						引越		
	通常開館			閉鎖								図書館開館準備	再開館
広報センター				仮設図書館開館準備				広報センター開館準備					
	通常開館			仮設図書館として開館								再開館	

↑  
 広報センター物品等移動

## ○仮設図書館でのサービス

開館時間（従来どおり）

	学業期	休業期
平日	9:00~21:00 (試験期は22:00まで)	9:00~17:00
土・日・祝	9:00~17:00	閉館

配置資料 【図書】 新着、ベストセラー、シラバス、正光文庫、人間力、参考図書  
など 約2万7千冊

【雑誌】 ブラウジングコーナー、新着コーナー配置雑誌から選定（当該  
年分のみ）

【新聞】 従来どおり 11誌（当該年分のみ）

\*上記以外の図書は倉庫に保管するため、平成22年3月までご利用頂けません。そ  
の対応策として、事前に特別貸出を実施いたします。

詳細については、後日メール等でお知らせいたします。

## ○7/1～ 1週間程度休止するサービス（★は学内者のみ対象）

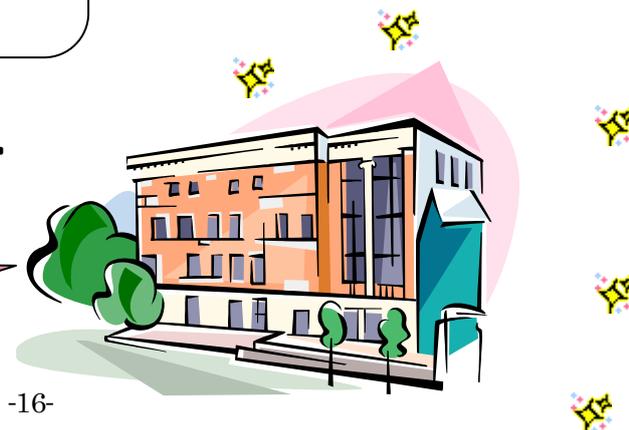
- ☆閲覧
- ☆貸出
- ☆利用者用パソコン
- ★研究室配置の図書・雑誌受渡し

## ○休止しないサービス（★は学内者のみ対象）

- ☆返却
- ☆電子ジャーナル及びデータベース
- ☆図書館ホームページ、蔵書検索
- ★文献複写申込（他館からの取り寄せ）
- ★研究室配置の図書購入申込

平成22年4月には・・・

リニューアル



◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆ ◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆ ◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

## 「医療・健康情報提供のスキルアップ講座」開催

平成20年11月14日（金）鳥取大学医学部旧保健学科棟コンピュータ演習室および米子市立図書館で「医療・健康情報提供のスキルアップ講座」を開催しました。この講座では、公共図書館による情報提供へのニーズが高い医学関連情報についての、レファレンスに役立つ情報の収集方法、医療・健康に関する公共図書館と大学図書館の地域連携のノウハウを学ぶことを目的としました。

午前の部（会場：鳥取大学医学部旧保健学科棟コンピュータ演習室）の「公共図書館での医療・健康情報提供サービスのための資料整備とレファレンス支援ツール」では、辰巳公一講師から、パソコンを使った医療・健康情報の検索方法や支援ツールなどについて詳細な説明があった。また午後の部（会場：米子市立図書館）では、野沢敦講師による「鳥取県立図書館と県内市町村図書館の健康情報サービスの現状」と題して、鳥取県内公共図書館の闘病記文庫等の開設状況や今年度の全国図書館大会の報告などの最新情報について講演があった。続いて行われた市川美智子氏による「医療・健康に関する地域連携パスファインダーの作成について」と題した講演では、地域連携パスファインダー作成の背景や目的を学び、グループに分かれ各自用意してきた「脳卒中」に関する図書を使つての実習を行い、パスファインダーの作成方法を学んだ。

参加者のアンケートでは、「国立国会図書館の調べ方ガイドは、早速利用者教育に役立ちます。」「パスファインダーを自館用に是非作ってみたい。」「図書館利用者の方への医療・健康情報の必要性を実感しました。」など今後の図書館運営にも役立つとの感想が多く寄せられた。





## 講演会「出版の現在、図書館の未来」開催

平成20年12月5日(金)鳥取県立図書館大研修室で、講演会「出版の現在、図書館の未来」を開催しました。出版関係の情報誌「出版ニュース」を発行する出版ニュース社代表の清田義昭氏による「出版の現在、図書館の未来」と題した講演では、「出版ニュース」が選ぶ2008年の出版界・読書界の10大ニュースを紹介しながら、出版流通のしくみや休刊が相次ぐ雑誌不況などの出版界の現状について詳細な説明があった。又、東京の公共図書館の動向を例に挙げながら、出版界も図書館も文化を支える役割を担っていることなどの話があった。



参加者からは、「普段知る機会の少ない出版界の現状や問題点について話を聞くことができて有意義だった」などの感想が寄せられた。



## 講演会「市民のための図書館—公共図書館の新しい役割」開催

平成21年1月21日(水)倉吉交流プラザ視聴覚ホールで講演会「市民のための図書館—公共図書館の新しい役割」を開催しました。講師の日本図書館協会理事常世田良氏の講演では、日本の社会が「自己判断自己責任」型社会へ移行している現状を踏まえ、従来の情報システムでは市民にとって不十分なものであり、公共図書館こそが、個々の市民にとっては、今後の情報収集に重要な役割を果たすことができると、世界の図書館と比較しながら、分かりやすい例を用いた説明があった。



また、国家レベルでの図書館政策の必要性や、図書館利用のポイント、図書館のミッションと「選書」に関する司書の専門性などについても具体的事例に基づいた説明が行われた。

参加者からは、「図書館の重要性について行政はもっと考えてもらいたい」、「これからの図書館の果たす役割、司書の役割について、方向が見出せた」「図書館がもっと発展するようにそれぞれの立場で力を出していきたい」などの感想が寄せられた。



## 附属特別支援学校生徒の職場体験実習を実施

平成20年11月4日～7日の4日間、附属特別支援学校高等部の生徒1名が職場体験実習を行いました。例年3日間でしたが、将来の就職につながるよう実習の期間を長くして、仕事の経験をつませてほしいとの要望があり、今年度は4日にしました。

慣れない作業に戸惑いながらも、カウンターでの図書の貸出・返却処理をはじめ、図書の並べ替え、ラベルのはりかえ等の作業を行いました。職場での規則正しい生活ができるよう一生懸命がんばっていました。



## 平成20年度第2回 鳥取地区図書館実務者連絡会議を開催

鳥取地区図書館実務者連絡会議を、12月22日に鳥取県立図書館で開催しました。県内東部の大学図書館と公共図書館から実務担当者10名が参加して行いました。各館の活動状況報告に続き、前回の継続課題であった「鳥取市立中央図書館移動図書館者の鳥取大学、鳥取環境大学への巡回」について検討した結果、鳥取大学では4月から実施することで了承されました。その他、危機管理についてマニュアル等の情報について、互いに協力し合うことで合意されました。次回は、鳥取大学で開催の予定です。



鳥取大学イメージキャラクター

愛称：とりりん

# 平成21年度 鳥取大学附属図書館中央図書館カレンダー

※改修工事が予定されており、変更する可能性があります。  
ホームページ、館内掲示などでご確認下さい。

開館時間：9:00-21:00

開館時間：9:00-22:00

開館時間：9:00-17:00

開館時間：13:00-21:00 (月末整理日)

休館日

## 2009. 4 April

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

## 2009. 5 May

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

## 2009. 6 June

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

## 2009. 7 July

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

## 2009. 8 August

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

## 2009. 9 September

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

## 2009. 10 October

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

## 2009. 11 November

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

## 2009. 12 December

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

## 2010. 1 January

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

## 2010. 2 February

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28					

## 2010. 3 March

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

鳥取大学附属図書館報 第113号 (2009年4月)

〔編集・発行〕 国立大学法人 鳥取大学附属図書館中央図書館

〒680-8554 鳥取市湖山町南4丁目101番地 [TEL] (0857)31-6727 [FAX] (0857)28-6346

〔E-Mail〕[tosyokan-m@adm.tottori-u.ac.jp/](mailto:tosyokan-m@adm.tottori-u.ac.jp/) [ホームページ] <http://www.lib.tottori-u.ac.jp/>

Copyright (C) 国立大学法人 鳥取大学附属図書館 【本館報について一切の無断転載を禁止します】

